

消防団とはどんなもの？

消防の歴史は古く、そのルーツは江戸時代の「町火消」にさかのぼります。火災や災害発生の際の知らせを聞いた町火消は、互いの組の名譽をかけて活動にあたり、消防の発展に多大な成果を挙げたといえます。明治27年から従来の自治的消防組織体制から行政の手による消防へと統一を図るため、「消防組規則」が政

府により公布されます。これに伴い、現在の市町村消防団の前身である消防組が全国各地で誕生しました。

現在、消防団は本業を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づいて、地域の安全と安心を守るために活躍している人たちが集まる市町村の消防機関の一つとし

て、ほとんどの市町村に設置されています。消防団員は、消防・防災に関する知識や技術を習得し、火災発生時における消火活動、地震や風水害といった大規模災害発生時における救助・救出活動、警戒巡視、避難誘導、災害防衛活動などに従事し、地域住民の生命や財産を守るために活躍しています。

このように、消防団は地域における消防・防災の中核的存在として、今後も大いに活躍する



ことが期待されています。

消防団の主な活動

平常時においても、訓練のほか、応急手当の普及指導、住宅への防火指導、特別警戒、広報活動などに従事し、地域における消防力・防災力の向上において重要な役割を担っています。主な活動は次のとおりです。

- ・ 定例幹部会議
- ・ 消防学校研修（初任科、機関科、指導員養成科）
- ・ 水防訓練（鬼怒・小貝、利根川水系）
- ・ みらいフェスタ・綱火警戒

- ・ 消防ポンプ操法大会
- ・ 防災訓練
- ・ 住宅用火災警報器指導者研修
- ・ 出初式
- ・ 火災予防パレード
- ・ 夜間火災予防広報
- ・ 消火栓点検
- ・ 小中学校操法展示

火災予防パレードの様子



消防学校初任科研修の様子

